



街頭の觀

ある日の朝赤坂溜池を所用の爲め通行して居ると三會堂の大玄關に「大日本殊勳者大會會場」との大立看板が立られてあつた。大日本帝國の殊勳者と云へば現今では西園寺公望公、金子堅太郎伯、富井政章男、清浦奎吾伯、齊藤實子、高橋是清氏等が第一線であるであらう、然るに出入の人々を見ると町村長らしい人や發明者らしい人や企業家らしい人であつて國家の殊勳らしい方とは一向に見受けられなかつた。「大日本殊勳者大會」はどんな會合であらうか、看板人を驚かすも甚しいものだ、警察では何故に注意を加へないのかなど頭の中へ臨時の

ロシヤ大使館

跡の哀愁

霞ヶ關の丘上に人目を惹くに足る建物が

感想が湧き出でゝ呆然として居ると不意に大きな物體が目前に迫り來つた、驚いて見ると花環を滿載して居る大トラックであつた、花環と云ふものは死者を弔する意を表する爲めの物品であるのに贈者の名札が麗々しく而もなる丈け大なるものが人の目に付き易い所にさし立てられてゐる、之れでは自己廣告の爲めとしか思はれない、他の死を弔ふのか自己廣告か此處にも不快な感が起つた、街頭に出でゝの不快さは書齋にての朗さに如かずと痛感した。(白洋)

注	意
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文原稿は道路の改良編輯部宛のこと。	何時の頃にか建られた、夫れは露西亞大帝國がロマノフ家で支配されて居る時代の古き建物であつたに相違はない、一時は我邦でも恐露病患者だと云はしられた政治家の親露派があつた時代、日清戦後の三國干涉時代では殊に此建物は大きな役割をつとめたものだ、其後日露戦役中は米國に依つて保管され淋しい姿であつたが平和國交が回復され駐劄大使が住んだので聊か舊態を改めた更に世界戦役の最中共産黨起りて王朝仆れケレンスキイ・レニンの徒に依つてボルセヴィキ政府成つて世界平和克服の後は此建物の尖頭に赤旗が翻して東京灣より吹きくる軟風にひらめいてをつた、ソ聯邦政府の使節館が飯倉片町に移轉して

後は拓務大臣の官邸となつて彼の在満機構問題で軍部と對立行動が執られたと傳へられた頃には朝夕自動車の出入が頻繁であつたが其事件が終るや否や大藏省新築敷地としての開墾工事は朝に夕に此建物に迫り來つて拓務大臣邸の崩落も時の問題となつた。夫れがあらぬか何時の間にか芝三田聖坂の傍邊野總一郎氏の別邸に官邸は移つた mechanical Digger は遠慮會釋もなく刻々其強靱な機械力を打ち振つて居ると見る内に建物の屋根ははぎ取られ、壁は打ちくだかるゝ姿となつた、此建物にして心あらば今昔の感果して奈何ぞや物置小屋は事務室となり、バラック變じて鐵骨建となる世の中にも斯る變遷を見てそぞろに哀愁の深きを禁じ得ない。(南國老史)

金約款廢棄の

鐘はどう響くか

日米間の問題は何んだかがある様でない様でぶきみな日を送らされて居るが大海軍

の島根にひゞかせるのに之れはまた異なる轟の鐘も打たるることとなつた、彼の國でたが其事件が終るや否や大藏省新築敷地と

建設の聲を太平洋の怒濤に乗せて東海蓬萊の島根にひゞかせるのに之れはまた異なる轟の鐘も打たるることとなつた、彼の國で昨年六月頃實施された金約款廢棄決議の結果は金本位制の停止と共に一切の債務支拂に當つては契約當時の金貨をもつてせず一ドルは常に一ドルとして通用するので債務者は現在の通貨で其債務を辨済し得るので現在の經濟事情からは恰當な決議であるが夫れが米國憲法上不合法なりとの説が生じて大なセンセーションを捲き起して居る、若し米國大審院が此決議を不法なりと判決したなら債権者は貸した當時の純分品位の金で支拂はしむるか又は同價値の通貨での辨済を爲さしむるの權利を有することとなつて債務者は百ドルの債務は百六十九ドル

支拂はねばならぬこととなる、そうなると彼の國財界の混亂は推知し得る、此鐘の音は我日本にどう響くであらうか。とにかく米の大審院はさすがに實際を無視せず不法にあらずと判決した之れで無事だ。理論よ

りは實際だ。(夏木生)

路面鋪裝は 田舎道にも

瘦せた人には襟肩のあきを出来る丈小さくし帶も上方で結ばず胸に幾分のゆとりを見せる様にすること、肥つた人は下持へをキツチリとし、上着は出来るだけユツタリとする襟もとは少し抜き加減に襟肩に丸味をもたせるやうに、帶は乳の部分を少し壓へ氣味に普通の高さに結びますことあります、女の服装でも斯様に工夫しなければなりません、道路の路面鋪装も都會では床底をキツチリと持て高級鋪装を施さねばなりませんが、田舎では田舎なりに經費も安上りで出来る様簡易鋪装でよろしいから、はやく鋪装してもらひたきものであります、日々郊外から都心めかけて通勤する夫達職業婦人に取つては是も迅速に運ばる様にと願ふ次第であります。(フミエ)

×

×

×